

川内原発再稼働 故郷を憂う

大学生

(東京都 22)

鹿児島から上京して1年半。都会の雑踏と喧噪の中でふと、火山灰を気にした故郷での日々を思い出す。先日、川内原発の再稼働が事実上、決定した。賛成か反対かを明確にするための時間や情報が不足していると感じる人もいる。

鹿児島に住む友人はこう話す。「原発が動けば、街は元気になるかも知れない。しかし、また福島のような悲劇が起こるのではないかという思いが頭から離れない。頭のよい人たちが難しい言葉で勝手に話を進めていって、私たちは完全に取り残されている。みんな

で考え、勉強し、議論する時間がもう少し欲しい」と。

鹿児島にいながら、「蚊帳の外」で議論を見守るだけの不安は察するにあまりある。

再稼働の話が持ち上がってから今までに費やした時間は、鹿児島と日本の未来を考えるのに十分な時間だったか。国民全体で、再稼働の是非を考える時間がもう少し欲しかった。

桜島は今日も噴煙を上げているだろう。風向きが気になる。降り積もるのが火山灰であるうちはまだよい。遠く離れた東京で空を見上げ、スピード決着で再稼働に突き進む故郷を憂う。